

意見聴取アンケート結果の報告

日本語文法学会評議員会では、(1) 役職・委員の60歳定年、(2) 大会の土日開催、この2点について、長らく議論を進めてまいりましたが、この件は評議員会でのみ議論を進めるべきことではなく、広く会員の皆様のご意見を伺うことが必要ではないかと考え、会員のみなさまからご意見を伺うアンケート（無記名）を実施しました。

意見聴取アンケートの実施期間は、10月12日（土）～11月30日（土）で、(1) については218件、(2) については、213件のご意見をいただきました。

お忙しい中、ご協力くださいました方々に深くお礼申し上げます。

今後、評議員会では、皆様からの率直なご意見一つ一つを吟味し、さらに検討を進めていきたいと考えておりますが、これらの貴重なご意見を会員のみなさまにも共有していただきたいと考え、下記に公開いたします。

公開については、12月14日の評議員会にて「年齢に関しても公開したほうが、参考になるのではないか」ということになりましたので、コメントと回答者の年齢層を公開いたします。

これまでの評議員会での議論と同様、多様なご意見が寄せられ、(1)(2)のどちらについても、今すぐに結論を出すことは難しいと思われませんが、会員の皆様にもぜひ、この問題についてお考えいただきたいと思っております。

改めまして、ご意見をお寄せくださいましたみなさま、本当にどうもありがとうございました。

日本語文法学会 評議員会（文責：前田直子）

目次

| | |
|------------------------------|----|
| (1) 役職・委員の60歳定年について（回答数218件） | 2 |
| ■ このままでよい | 2 |
| ■ もう少し延長したほうがよい | 4 |
| ■ どちらとも言えない | 9 |
| ■ その他 | 11 |
| (2) 大会の土曜・日曜開催について（回答数213件） | 13 |
| ■ これまで通り、土・日開催がよい | 13 |
| ■ その他 | 18 |

(1) 役職・委員の60歳定年について（回答数 218 件）

本学会の役職・委員は、「日本語文法学会 会則」第7条・第8条により、「就任時点で60歳未満でなければならない」との規定があります。

この規定は、2000年の学会設立時に「若い学会として、学会運営もできるだけ若い会員で担っていくのがよい」との趣旨で定められたようですが、学会設立から20年以上が経った昨今、「もう少し延長してもよいのではないか」という意見も出ています。

そこで、この「60歳定年」について、ご意見をお伺いします。

■ このままでよい

| | | |
|----|---|-------|
| 1 | 世代交代を促すため | 40代 |
| 2 | 学会の新陳代謝のため。 | 30代 |
| 3 | 若い人が中心であるべき | 50代 |
| 4 | 若手の活躍の場が必要だから。 | 20代 |
| 5 | 設立時の趣旨を大切にしたい。 | 50代 |
| 6 | 若い人たちに、活躍してもらうため。 | 50代 |
| 7 | 学会設立時の趣旨で良いと思ったため。 | 50代 |
| 8 | 他学会と比較しても、うまく機能している | 50代 |
| 9 | フレッシュさを保つ必要があると思います。 | 50代 |
| 10 | 若手主体の学会の方が新しさが維持されて良い。 | 40代 |
| 11 | 若い方にも参加していただいた方がよいと思います。 | 50代 |
| 12 | 若手にとって業績になることはいいことだと思います | 60代以上 |
| 13 | 設立時の趣旨に賛同しており、このままで良いと考えています。 | 40代 |
| 14 | 設立理念と学会の特色に関わる点を変えると他の学会と同じになるから | 30代 |
| 15 | 若い会員が担っていく学会という趣旨は今も通用するものと思われる。 | 60代以上 |
| 16 | 若さを保ち続けるという理念を変えたくない。定年制によって、必然的に若手が成長する。 | 50代 |
| 17 | 学会設立時からの経年は必ずしも延長の根拠とはならない。また、学会設立時の趣旨に異論がない。 | 30代 |
| 18 | 60歳が若いとは言えないのではないか。できるだけ若く先が長い会員に運営を任せられた方がよいと思う。 | 40代 |
| 19 | 「若い学会として、学会運営もできるだけ若い会員で担っていくのがよい」という趣旨で設立した学会なので。 | 50代 |
| 20 | 「60歳定年」は学会設立時の趣旨の一つで、それが維持できるように学会運営や後進の育成に力を入れるべきだと思うから。 | 50代 |
| 21 | 若い世代が中心になってやっていくのが良いと思います。そのほうが自由にものを言える組織になる可能性が高いと思うからです。 | 50代 |
| 22 | 高齢者が役職・委員になると、若い世代の人が動きにくく学会が活性化しにくいと思います。学問的な派閥を形成しにくいシステムが望ましい。 | 60代以上 |
| 23 | 設立時の趣旨、思想が変えられるべき理由がない。研究職における現役年齢の延長（例え | 40代 |

| | | |
|----|---|-------|
| | ば国立大学の退官年齢等)等、世相に合わせるのであれば理解できる。 | |
| 24 | 役員になる人の入れ替えが多いほうがよい。60歳を超えて役員になる人はほとんどの場合過去に役員を経験した人だと思われるので、定年延長はしないほうがよい。 | 60代以上 |
| 25 | 設立当初の理念を継続することが、若い会員の主体的な研究を後押しすることに繋がると考える。学会継続のためには数多くの会員が学会運営に携わるようにしていく方が好ましい。 | 40代 |
| 26 | その時代ならではの研究の流れがあり、それを反映した考え方を持っている人が必要だと思います。また、それは結果的に採択率にも繋がると思うため、年齢を制限するのも悪くないと思います。 | 40代 |
| 27 | 他学会と比べて会長の年齢が(少し)若いこと、年会費が少し安いことなどが、本学会の特徴を構成していると思われるため、よほどの人手不足とならない限り、役員・委員の年齢上限を現時点で変更しない方がよいと思われる。 | 50代 |
| 28 | 学会を取り巻く情勢の変化が激しい昨今、学会運営を柔軟に変化させていくためには比較的若手の人たちが学会を運営していくのが適当である。ただし、今後新入会員が減少するなどして、人手不足に陥った際には定年の延長を検討してもよい。 | 50代 |
| 29 | 設立の際の主旨尊重が理由です。「もう少し延長」という意見が、どのようなところから、どの程度出てきているのか、その理由は何であるのか。そういったことが示されない状況では、「もう少し延長」の意見について検討のしようがないように思われます。 | 60代以上 |
| 30 | ご説明をいただいた学会設立当初の理念は、時代を経た今も理念として掲げて何も違和感はないように感じます。学会が歴史性を帯びてきたとしてもです。学会運営を任せられる方々を育てることも学会、あるいは会員の一つの役割と考えることもできるのではないのでしょうか。 | 50代 |
| 31 | 「若い学会」を維持してほしい。なぜ学会設立から20年経ったことが、会則の変更理由になり得るのか?会員の中に役員を長く続けたい勢力がいるからではないかと勘ぐってしまう。一度条件を緩和すれば、そこからなあなあに会則が緩くなる懸念もある。安易に変更すべきでない。 | 30代 |
| 32 | 経験的な意見です。私の勤務先は65歳定年でしたが、60歳をすぎると、委員会その他の責任者となることがしばしばで、出張を含め、多忙となりました。たとえば、論文の査読等の仕事は、十分な余裕を見だしにくくなると予測します。このことから、従来そのままのほうがよろしいように考えます。 | 60代以上 |
| 33 | 定年で役職・委員にはなれないかもしれないが、学会には参加できるので問題ないと思う。それか、60歳以上の方は学会方針などの重要事項の意思決定などに直接は関われないが裏方の運営には参加できる、のようにすれば経験値が役に立ってくるのではないかと(力のある人の学会の私物化を避けるため)。 | 30代 |
| 34 | 設立当初の理念が「若い学会として、学会運営もできるだけ若い会員で担っていくのがよい」としたのであれば、「年長の方が学会運営に関わるのはあまり望ましくない」と考えられたのだと思います。設立当初に比較的若い世代だった方が年長になられたのであれば、当初の理念に従い、次の世代に運営を託してよいのではないのでしょうか。 | 40代 |
| 35 | ・現状でも複数の学会の役員・委員を同時期に兼任する人がいますが、年齢制限をなくすと、年齢制限のない他学会の役員・委員に同時期に選出される人がさらに増える(兼任を避けるために役員・委員の選出が難しくなる)のではないのでしょうか。 | 50代 |

| | | |
|----------------|--|-------|
| | ・役員選出が年功序列的ではない（権威的ではない）ところがこの学会のよさだと思います。 | |
| 36 | <p>「若い学会として、学会運営もできるだけ若い会員で担っていくのがよい」との趣旨に賛同するためです。他所の学会の委員一覧で、定年を迎えた先生方が理事にずらっと並んでいるのを見ると、どこに向かって運営をしているのだろう、ということをしてしまいます。（現に、そういった学会の「若手支援」策が良い方向性のものなのか、疑問に思うことも多い。）</p> <p>若ければそれでよいというわけではないですが、将来まで見据えた運営を考える場合、年齢を一つの基準とする現行案は良いものであると考えます。</p> | 30代 |
| 37 | <p>学会設立から20年以上たって既に「若い学会」とはいえませんが、学会運営を若い会員で担っていくという趣旨はとてもよいと思います。若い方々のアイデアや行動力が学会を生き活きたものにできるように思います。</p> <p>場合によっては、より年長者の意見をうかがう必要があるという事項が発生するかもしれませんが、そのためには、たとえば日本言語学会のように「顧問」（会長経験者）という役割をつくっておいて、適宜ご意見やアドバイスをいただけるようにしておくのもいいかもしれません。日本言語学会の顧問が具体的にどういうお仕事をなさっているか存じませんが、評議員会には出席（オブザーバー）なさっていると思います。</p> | 60代以上 |
| 38 | <p>「学会運営を若い会員で担っていくのがよい」という趣旨は同意できるものであり、学会設立から年数が経った（「若い学会」でなくなった）からとって、変わるものではない。なぜなら、たとえ歴史ある学会であっても、若い会員は常に存在するからである（その意味で、設立時の趣旨にある「若い学会として」という部分は論理的に筋が通っていないと言える）。そもそも、就任時で60歳以下というのは世間一般に見て決して若くはない。これが若く見えるのだとしたら、いわゆるアカデミアの慣習を内面化しすぎていると言えるだろう。確かに他学会ではもう少し年齢が上であっても役職に就いている場合もあるが、日本語文法学会がそれらに合わせなければならぬ理由は示されていないと思う。もし現状の規定を変更したいのであれば、現状において何らかの不都合が生じているなどの理由が必要である。そのような理由が見出せない以上、規定の変更に正当性はないと言わざるを得ない。</p> | 30代 |
| 39-61 【コメントなし】 | | |

■ もう少し延長したほうがよい

| | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 65歳 | 60代以上 |
| 2 | 63歳 | 60代以上 |
| 3 | 65歳定年くらい。 | 50代 |
| 4 | 定年まで良いのでは。 | 30代 |
| 5 | 70歳定年にすべき。 | 60代以上 |
| 6 | 定年は設けないほうがよい。 | 40代 |
| 7 | 65歳くらいまでよいのでは | 50代 |
| 8 | 60歳はまだ現役だと思うから | 50代 |
| 9 | 65歳くらいに延長したほうがよい | 50代 |
| 10 | 世間一般では65歳が定年年齢だから | 60代以上 |

| | | |
|----|--|-------|
| 11 | 大学の定年が65才ぐらいであるため | 60代以上 |
| 12 | 若い人に負担が偏るのは良くないと思う | 20代 |
| 13 | 10年延長。高齢者の活躍の機会確保。 | 50代 |
| 14 | 若い世代の研究者が少なくなっているため | 50代 |
| 15 | 定年の年齢程度65歳がよいのではないか。 | 40代 |
| 16 | 70才まで。多くの大学の定年に合わせる。 | 60代以上 |
| 17 | 大学の定年が62や65のところもあるので。 | 40代 |
| 18 | 最近では65歳定年が一般的になっているので | 60代以上 |
| 19 | 満了時点で、65歳など一般的な定年の年齢まで | 40代 |
| 20 | 5年程度延長してよいのではないかと思います。 | 50代 |
| 21 | 年齢は関係無いと思うので定年は不要だと思います。 | 50代 |
| 22 | 教員の一般的な定年の65歳くらいが妥当ではないか。 | 40代 |
| 23 | 高齢化社会に向けての取り組みとしてはありだと思ふ。 | 50代 |
| 24 | 大学の定年である65歳まで延長しても良いと思います。 | 50代 |
| 25 | 国立大学の定年と同じ、65歳にするのが良いと思います。 | 30代 |
| 26 | 5歳程度。65歳定年制の導入が本格化してきているため。 | 40代 |
| 27 | 定年の年齢の引き上げに合わせるのが妥当だと思います。 | 50代 |
| 28 | やりたい人がいれば年齢で制限しない方がいいと思うため。 | 50代 |
| 29 | 若い会員の層が薄い印象があり、今後人選が大変になりそう。 | 40代 |
| 30 | 65歳定年の大学も多いので、このあたりが順当ではないか。 | 60代以上 |
| 31 | 国立大学の定年に合わせて65歳までとしてもよいと思います。 | 30代 |
| 32 | 70歳定年（社会の高齢化に対し、現実的な対応を考えて設定） | 40代 |
| 33 | 参加している別の学会では年齢制限がなく、問題がありません | 50代 |
| 34 | 59歳未満に限定してしまっただけは、なり手がなくて困るでしょう。 | 50代 |
| 35 | 65歳とする。60歳では学会委員の十分な経験のある人が限られる。 | 50代 |
| 36 | 60歳は今の感覚では若すぎるように思われる。3年延長ではどうか。 | 60代以上 |
| 37 | 国立大学の定年が65歳なので、それと同じというのでよいように思います。 | 50代 |
| 38 | 人生100年と言われる時代で、60はまだ十分活躍できる年齢だと思います | 50代 |
| 39 | 若手の就職状況を考えると、役員の年齢が上がることは必然と思われるため。 | 40代 |
| 40 | それぞれの年代、経験に応じて、それぞれの役割やできることがあると思います | 50代 |
| 41 | 2000年当時と比べて定年も延長され初めて研究職に就く年齢も遅くなっている | 40代 |
| 42 | 65歳までは延長してよいと思う。多くの大学等で65歳を定年にしているため。 | 60代以上 |
| 43 | 会員数が比較的少ないため、役職者となりうる対象を増やしておいたほうが便利。 | 60代以上 |
| 44 | 大学の定年まで延長してよいと考えます。今後人手不足も起きうると思うからです。 | 40代 |
| 45 | 60代はまだまだお若いし、依然としてご活躍される年齢でだと思いますからです。 | 40代 |
| 46 | 63歳くらい。国立大学の定年も延長され、現代の60歳はみなさんお元気だから。 | 50代 |
| 47 | 年齢制限なしに働いていただける方には働いてもらった方がよいのではないだろうか。 | 50代 |
| 48 | 65。運営に関わる人は少しでも多くいたほうが1人あたりの負担が少なくて済むため。 | 30代 |
| 49 | 国立大学の定年も65歳となっているので、それに合わせてもよいのではないかと思います。 | 20代 |

| | | |
|----|---|-------|
| 50 | ・平均寿命が延び、社会の中で60歳という年齢がもつ意味が以前とは変わったと思われるから。 | 50代 |
| 51 | 特に年齢を制限する必要がないと思います。学会の役職・委員に年齢を制限する理由がないと思われます。 | 50代 |
| 52 | 現行の方針も理解できますが、より多くの人が学会運営に参加できるようにするのもいいことだと思います。 | 60代以上 |
| 53 | 多様なキャリアが選択できる時運にはキャリアの長さが年齢で決まらないため、年齢による差別につながるため | 40代 |
| 54 | 強い主張ではありませんが、企業等でも65歳定年になっているのでそこまでのばしてもよいように思います。 | 50代 |
| 55 | ベテランの人に顔役・指導役になってもらい、必要なら役職を増やして未経験の人に割り当てたらいいと思います。 | 50代 |
| 56 | 60代ならまだまだ元気で活躍できるので、定年は少なくとも65歳、あるいは67歳くらいでもいいと思います。 | 60代以上 |
| 57 | 会員それぞれ勤務先の仕事などで忙しいと思われるので、幅広い範囲から選出できるようにした方が良く思うから。 | 40代 |
| 58 | 国家公務員の定年年齢が段階的に65歳に上げられている現状に鑑み、65歳くらいまで延長してもよいと思います。 | 40代 |
| 59 | 研究機関の定年が65歳であることを考えると65歳までは役職に就くことができるようにしても良いように思えます。 | 50代 |
| 60 | 現在、ほとんどの大学（及び研究所等）で65歳定年を実施しており、65まで定年を延長しても良いのではないかと考える。 | 60代以上 |
| 61 | 年齢制限はなくてもよいかと思いました。不都合があるのでしたら、最長●期というのだけ設けてあればよいかと思いました。 | 50代 |
| 62 | 若い会員と老会員では、専攻分野が違ってくる可能性があります。分野のバランスを取るためにも、70歳までの延長を希望します。 | 60代以上 |
| 63 | 庶務的な業務（単に人手が必要というもの）については、もう少し延長し、若手の負担を減らすことを目指すのが良いように思います。 | 40代 |
| 64 | 大学教員の定年が65歳に設定されていることが多い（ように思われる）ことを踏まえ、こちら65歳くらいにしてもよいのではないかと。 | 30代 |
| 65 | 定年制はあったほうがよいと思いますが、昨今、定年延長が進んでいる中で、60歳は早すぎると思われます。65～70くらいかと思っています。 | 60代以上 |
| 66 | 63歳くらいまでは延長してもよいと思う。65歳定年の大学が多いと思うので、定年ぎりぎりではなく少し前となると63歳くらいが妥当では。 | 50代 |
| 67 | 若い学会という点は重要だが、他方で60歳未満だと多忙な年齢でもある。また多様な世代が参画できるという意味でも多少は延長しても良さそうに思われる。 | 40代 |
| 68 | 昭和時代なら60歳もありだったかと思いますが、平均年齢も上がってきているし、就任時点であれば「65歳まで」が、社会通念とも合致していると思います。 | 50代 |
| 69 | 大学の定年と同じくらいで良いように思いますが、定年になるまで役職ばかり、というのも負担がありそうなので、一般的な定年の数年前などが良いのでは、と思います。 | 40代 |
| 70 | 「どのくらい延長するか」（あるいは定年を撤廃するか）については、周辺の他の学会（日 | 20代 |

| | | |
|----|--|-------|
| | 本語学会・日本語学会ほか)の会則と足並みを揃えてもよいように思いました。 | |
| 71 | 例えば、多くの大学の定年の平均値あたりを目安にはいかがでしょうか？(それまでは、個人研究費などで、実際に学会にお越しくださる可能性も高いと思いますので。) | 40代 |
| 72 | 70歳せめて65歳までは、いったん候補に入っただけるとありがたいです。ある年代に仕事が集中し、仕事がきそうなので学会自体から離れるとなると、本末転倒に思われました。 | 40代 |
| 73 | 59歳以下の会員の割合を考えると、もう少し65歳ぐらいまで延長しないと運営に支障をきたすのではないかと心配がある。若い人に世代交代していくことに反対するものではない。 | 60代以上 |
| 74 | 会員数の減少、若手研究者の減少が進んでいることが1つの理由。また、大学の定年年齢も60歳以上の機関が増えているので、学会の役員・委員の定年の年齢も上げて良いのではないかと。 | 50代 |
| 75 | 多くの国立大学で65歳定年制が敷かれており、私立大学でもそれに倣うか、あるいは70歳程度にしているところが多いように思いますので、65歳程度にしておくのが時流に沿っているのかと感じられます。 | 60代以上 |
| 76 | 65歳まででよいのではないのでしょうか。 学会設立から20年以上が経ったとのことで、長年尽力されてきた先生方や、年齢があがってから会の存在に気付いて入られた方も増えてきたのではないかと考えるためです。 | 40代 |
| 77 | 委員になってもらえる若手研究者がたくさんいれば、今のままでいいと思いますが、定年退職されてからのほうがむしろ時間ができるので、本人が元気でやる気があれば、70歳までにしてもいいのではないのでしょうか。 | 40代 |
| 78 | 若い学会ではありますが、言語研究分野で重要な位置を占めてきているように思うからです。言語学会や認知言語学会とは趣旨の若干異なる研究の関心や方法論を加えるためにも、必ずしも『若い』委員でなくてもいいと思います。 | 60代以上 |
| 79 | 上の年代の研究者、中間の年代の研究者、下の年代の研究者が偏ることなくバランスよく参画できる組織であってほしいと考えます。そのような組織であれば、60歳という年齢で切る必要はなく、65歳、70歳でも問題ないと考えます。 | 30代 |
| 80 | もはや60歳で定年になる大学はないので、国立大学標準の65歳まで、もしくは私立大学最長の70歳まで延長しても良いのではないかと。ただし、学会ができるだけ若手中心に運営されるべきという当初の理念には賛同するし、保持されるべき。 | 40代 |
| 81 | 「若い会員」「若い方々の意見」というのを大切にしようとしている趣旨は賛成です。ただ、何歳から今のキャリアを進み始めるかは最近が多様化していますし(私自身40を越えてからです)、昔に比べて「若い」の幅が広がっていると思います。 | 40代 |
| 82 | 1、50代は大学で役職を務めることが多く、学内外での責任が重なることで負担が非常に大きくなるのではないかと思います。 2、現在、キャリアの多様化が進んでおり、年齢で制限を設けることは、時代の状況にそぐわない部分があると感じます。 | 30代 |
| 83 | 70歳 現役大学教員がボランティアで委員を様々な学会であれこれ掛け持ちする体制には、昨今の業務の増加に鑑みると限界がある。また、早稲田大学のように70歳定年のところもある。定年直後くらいの人に委員をやってもらう体制を作ったほうが良いのでは。 | 40代 |
| 84 | 60歳をすぎても大学の教員として勤めてる方は多くおられます。なので様々な意見を取り | 40代 |

| | | |
|----|--|-------|
| | 入れるという観点から若い会員+長年この世界に携わってきた方で構成するのが良いと思います。65歳前後で大学を1度退官される方が多いので70歳くらいまでに引き上げるのがいいと思います | |
| 85 | 2000年の学会設立時の理念は理解できますが、少子化や大学などのポスト減少で今後は若い会員が減っていくかもしれません。また、2000年に比べると、学会・研究会がたくさんできており、若い会員もそちらで運営に携わる機会が増えているので、本学会を安定的に運営するためには、定年を延長してもよいのではないかと思います。 | 50代 |
| 86 | 1. 「研究者として現役と言える層」の分布の実勢からして、「65歳未満」ルールが妥当である。 2. 設立時に配慮された「意思決定の若々しさ」は重要だから、例外として、会長と委員長は「60歳未満」ルールを維持すればよい。これにより自然に、「自分よりも若い人の下で作業したくない層」（気持ちが若くない層）の役職・委員就任を避けられる。 | 60代以上 |
| 87 | 「70歳定年」にしてもよいのではないか。 大学教員の定年は通常65-63歳であり、大学を退職後も研究を続ける教員も多い。 学会を支える役員・委員は、学会活動に賛同する、あるいは支えるという気持ちがある人がやらなければ成り立たない。年齢を重ねただけ、多くの経験や対応力があるため、良いアドバイスが出来ることも期待できるのではないかと考える。 | 50代 |
| 88 | 70歳くらいまでは延長しても良いと思います。若い方が担えるのならそれに越したことはないですが、常勤職にある場合、学会運営の中心になるような世代は校務に忙殺されて厳しい方も多いのではないのでしょうか。制限するより、できるだけ世代幅を広くしておく方が、価値観の共有という面でも研究や仕事の継承という面でも、かえってプラスになることが多い気がします。 | 40代 |
| 89 | 文法学会は日本語学会（旧国語学会）などに比べ若い学会だったこともあり、設立当時は60歳の方だときちんと当時の文法に関する論文が評価できないということがあったかもしれない。しかし、文法学会も20年を経て設立当時の若手が定年近くになってきている。それはつまり、定年近い研究者であっても文法学会に投稿される論文をきちんと評価できるということでもあるのではないか。大学教員の定年は、国公立は多くが65歳、私立は70歳くらいではないかと思われる。そのことを考えれば、65歳程度までは延長してもよいのではないか。 | 60代以上 |
| 90 | 拙い意見ですが以下のように考えます。 少子高齢社会の日本においては後進の人間の育成が難しいため、ぜひ実績のある先生方に、ご多忙とは存じますが役員を続けていただきたいと願っております。 日本語の文法について研究する学会なので、多様な人材の採用は難しいと思っており、ぜひとも日本語文法のご研究に実績がおありになる先生方にご指導いただき、会を盛り上げるためにも、継続して役員をお引き受けいただきたいと私個人は考えています。雑務は若い方がご担当されるとしても、特に会長は学会の威信にも関わるものと思っております。 | 50代 |
| 91 | 一般会員の資格に年齢制限がないのであれば、一般会員である限り役職・委員ができる規定が相応しいと思います。「若い会員で担う」という趣旨はとてよくわかりますし、設立当時にそのような規定であったことは十分に理解しています。一方で、役職・委員を担う若手というのは、本務校においても中心的な立場、役職にあることが多く、ボランティアである学会活動との両立で過重な負担になっているという事実も無視できないと思いま | |

| | | |
|-----------------|---|-------|
| | す。本務校を定年で退職され、しかし一般会員である会員に、学会運営をお任せするという選択肢があってもよいと思います。 | |
| 92 | 当初、学会の運営が旧態依然としたものにならないようにという意図で他学会と比べ低い年齢制限が設けられていたと思いますが、学会として安定し、若手が登用できる雰囲気学会となっているのではないかと思います。そうであれば、一方、年代に関わりなく適切な方を委員等にするという考え方もでき、大学教員の定年も上がっているのに、年齢制限を上げるということは首肯できると思います。その際、何らかの根拠を以て年齢を設定するとすれば、国立大学法人等の65歳定年から、例えば就任期間に65歳を越えないように設定することが考えられると思います。ただし、評議員については、選挙のコストとエフォートから任期が3年から6年と長く変更されたこともあり、現在でも任期中に65歳までと高くなっているのに、前述とは別個に考える必要があるかもしれません。 | 60代以上 |
| 93 | 「若い会員が担う若い学会」という理念に関してはそもそもこの問題はあまり関係ないように思います。60歳はまだ若いと思われる場合も現代社会ではあるかもしれませんが、還暦であり間違いなく高齢層ですので、それ未満でもそれ以上でも「若い」理念の実現とは関係ない気がします。本当にその理念を最優先とするなら、例えば40代以下（少なくとも50代以下）が役職・委員に占める割合といった議論になる気がします。ですので、現実の需要や運営状況により「60未満」のままだと厳しいようなら、延長でよいのではないかと思います。この改定は、「若い学会」であるかどうかとは無関係だと思います。（そもそもですが…約十年前から入会しており、これまで学会については「若い学会」「若い会員の集まり」というイメージはあまりないというのが正直な感想です…） | 30代 |
| 94 | この点、よく考えていただいている規定だと、常々思っていましたので、あまり変更してほしくない気持ちがあります。ただし、現時点での役職者や委員のみなさんから（だと思いますが）そのようなご意見が出ているのでしたら、ご負担を考えて、少し変更しても良いのではないかと思います。たとえば65歳という線引きがあると思います。一般的に、会社員・国立大学法人などでの定年退職は、現状、65歳が多いからです。しかし、本務がある方はその兼ね合いで難しい場合もあると思いますので、今後引き受けてくださるお元気な候補者がいらっしゃる見込みなら、たとえば役職を一般の委員に限定（委員長以外など）、さらに全体（あるいは委員会ごと）に占める割合や人数を限定して（面倒かもしれませんが）、70歳という規定もあり得ると思います。これまでの学問や学会運営の知識・ご経験を活かして若い方を支えていただくのは、必ずしも悪いことばかりではないと思います。 | 50代 |
| 95-114 【コメントなし】 | | |

■ どちらとも言えない

| | | |
|---|--|-------|
| 1 | 現在の会員構成がわからない | 50代 |
| 2 | 会員の年齢分布（世代ごとの大学教員数）をみないと何とも言えない。 | 50代 |
| 3 | 学会の状況次第。人材が不足していくと思われるようなら延長してもよいのでは。 | 40代 |
| 4 | 年齢制限をするのではなく、同じ人が何度も役職につかないようにした方がよい。 | 60代以上 |
| 5 | 役職・委員のうち、会長は就任時点で65歳未満くらいでもよいのではないかと思います。 | 30代 |
| 6 | 若い人がやってくれるならそれに越したことはない。ただ、適任者がいるかが問題だと思います。 | 50代 |

| | | |
|----|---|-----|
| | う。 | |
| 7 | 役員を務めた経験がないため、現状をよく把握していない。そのため、どのような意見が最善であるかが分からない。 | 30代 |
| 8 | 担い手の構成年代や絶対数によると思われるため判断が難しいです。人手が不足している場合はより幅広い年代の方にご協力いただいた方がいいように思います。 | 40代 |
| 9 | 重鎮がいつまでも役付きで目を光らせていることにはメリットとデメリットがあると思います。延長することと、中堅若手の役付採用を拡充させるべきだと思います。 | 40代 |
| 10 | 「若い学会として、学会運営もできるだけ若い会員で担っていくのがよい」という趣旨に非常に賛同します。「もう少し延長してもよいのではないか」という意見も出ていますが、その理由には何があるか、ちょっとわからないので、延長すべきかどうかは判断しかねます。 | 30代 |
| 11 | 年齢が上がるについて役職も上がり、本務が忙しくなるだろう（＝60歳以降には頼まないほうがよい）という一方で、いわゆる中堅こそ雑務に追われており、また子育て等も重なる時期でもあり多忙である（＝60歳までと言わず少しでも幅広い世代で負担を分け合うべき）とも言え、どちらにしても過重な負担になるのではという気がするため。 | 50代 |
| 12 | 現時点で揉んだ運営上問題がないのなら、特に変える必要は感じない。 一方で大学の教員の定年が65歳、70歳などと伸びているので、それに合わせて変更するという考えで、その方が運営上スムーズなのであれば、変更しても構わない。ただし、いつまでも「やらされる」という状況は避けた方がいいと思うので、65歳などにするのも一案かと。 | 50代 |
| 13 | 大学等の定年が65歳以上であることが多いことを鑑みると、委員会の委員はもう少し年齢が高くてもよいかもしれないと思います。ただ、評議員の就任時点60歳未満を引き上げることになると、70歳近くまで評議員を務めることになることになると思われ、それは当初の「若い学会として、学会運営もできるだけ若い会員で担っていくのがよい」という趣旨に合わないように思います。 | 30代 |
| 14 | 設立当初の意図や理念は十分に理解できますが、それがかえって会の運営の枷となっているのであれば望ましくない事態であると思います。ただ、では何歳まで引き上げれば良いのかという具体的な考えを持っておりません。 学会自体は活気がありますが、会の運営にご尽力くださっている方々のほとんどが、他学会の何かしらの委員と兼任されているのではないかと想像します。そうすると、定年を引き上げたとしても、今後、いまと同じような規模で維持していけるかどうか、やや疑問に思っています。 | 40代 |
| 15 | ・学会運営を担う委員について、若い会員が担うことはよいことだと思います。 ・一方で、現状、どの世代も各種の用務で負担が大きくなっており、「定年」規定がゆるやかな他学会でも、委員の若年齢化が進んでいる傾向にあるようにも感じます。とりわけ有志の若手研究者が複数学会の用務を担っている現状があり、どの学会も、幅広い世代で運営を担う体制作りの必要があるようにも感じるところです。 ・例えば評議員については、「65歳まで」など延長してもよいように思います。（自動的に会長も就任時65歳まで？） | 50代 |
| 16 | 「60歳未満」という当初の年齢設定が、たまたま当初の学会構成員が若かったからという理由によっているのであれば、延長してもよいかと思います。一方で、なるべく若い人材 | 30代 |

| | | |
|----------------|--|--|
| | を起用することで若手との距離感を近くして学会内の風通しをよくしたいという趣旨だったのであれば、現在の年齢設定を維持する、あるいは一定の年齢的な制限は残すほうがよいのではないかと思います。とはいえ、一般企業の定年も今後 65 歳となり、加えて 60 歳未満の人口が減少していくことを踏まえると、現実的な問題として 60 歳未満という設定は難しくなるかもしれないとも考えます。 | |
| 17-30 【コメントなし】 | | |

■ その他

| | | |
|----|--|--------|
| 1 | 柔軟に対応していったら良いと思うため。 | 20 代 |
| 2 | 委員を担える会員が限定されるため。5 歳程度延長 | 40 代 |
| 3 | 投票で選ばれる役職・委員に定年は必要でしょうか。 | 50 代 |
| 4 | 企業での定年年齢が 60 歳から 65 歳へと移行しつつあるため、65 歳未満でいいと思います | 30 代 |
| 5 | 本人の気力と体力の問題であり、業務遂行可能であるのなら特に定年を設ける意味はないと思う。 | 50 代 |
| 6 | 原則を「60 歳定年」としつつ、特段の理由がある場合は協議によって 1 年単位もしくは 1 期単位での延長を認めるとしてはいかがでしょうか。 | 50 代 |
| 7 | 定年制は必要ない ・定年制などなくても、年齢に関わらず（若くても高齢でも）有能な人を委員・役職にするような意識改革の方が必要である。 | 60 代以上 |
| 8 | 定年をなくす ・高齢化がますます進展する中、年齢で貢献できないよう制限をかけるのは、学会にとっても個人にとっても損失だと思う。 同じ年齢制限なら、一定の年齢以下の人を必ず含めることで若々しさを保った運営を保つのはどうか。 | 50 代 |
| 9 | 一般的な企業や学校法人に準じて 65 歳程度に引き上げてよいのではないかと考える。若い会員で担っていくのがよいという方針には共感するが、現状として少子化や研究者人口の伸び悩みがあるなか、60 歳定年に縛られると無理が生じる懸念があるのではないと思う。 | 20 代 |
| 10 | 高齢者が元気で時間の余裕がある現代において、このような規定はナンセンスです。・退職後のほうが、学会活動、研究活動などに使える自由な時間が増えるので、学術的・社会的・インターネット的環境的にちゃんと機能している高齢者を大いに活用すべきだと思います。年齢制限は無意味だと思います。 | 60 代以上 |
| 11 | 1) 若い人に活躍の機会を与えるために役員 60 歳定年（他の学会よりだいぶ早い）を決めて学会を発足させたのは、斬新で貴重な先見性であった。その精神は今後もできるだけ維持したい。2) その一方で、本学会が役員 60 歳定年のもとに学会を発足させた 2000 年時点では、大学の定年も、最も早い大学では 60 歳であったが、今では早くても 65 歳になっているのでは、ということを考えても、60 歳はやや早いのでは友思われる。3) というわけで、「どちらともいえない」のだが、一案として、「正副会長と委員長と評議員」は 63 歳程度までとし、「委員」は 60 歳を維持、といったように職種によって分ける方法があるかもしれない（評議員は会長に合わせなければならない）。 | 60 代以上 |
| 12 | 仕事の能力と年齢は関係がないから。・現代は高齢化社会であり、子育てを終えた後に研究の道に戻ったり、他業種から研究職に入る人も多い。研究者としての出発点が皆 20 代から | 50 代 |

| | | |
|----|---|--|
| | <p>とは限らない。役員就任もだが、各賞の受賞対象者が40代未満などと設定されていることに実質的な意味はあまりないと思う。これでは、30代、40代以降に研究を始めた者は、最初から役員就任、受賞の対象から外されていることになる。そのこと自体が、エイジハラスメントに相当する。ぜひとも考え直してほしい。</p> | |
| 13 | 【コメントなし】 | |

(2) 大会の土曜・日曜開催について（回答数 213 件）

本学会の大会は、これまで土・日に開催されてきました。しかし、次のような理由から、「土・日開催を見直してほしい」というご要望がありました。

そこで、会員の皆様に、大会の開催曜日について、ご意見をお伺いします。

■ これまで通り、土・日開催がよい

| | | |
|----|--|-------|
| 1 | 平日は参加しにくい | 60代以上 |
| 2 | 平日開催は非現実的。 | 50代 |
| 3 | 平日は仕事が抜けられません | 40代 |
| 4 | 休みが取れるのが土日が多い。 | 60代以上 |
| 5 | 平日に授業を休むのが難しいため。 | 50代 |
| 6 | 授業のある平日こそ参加が難しいため。 | 40代 |
| 7 | 平日は授業があり、参加できないため。 | 40代 |
| 8 | 平日開催の方が支障のある会員が多そう。 | 50代 |
| 9 | 授業のある平日の場合、参加は困難です。 | 60代以上 |
| 10 | 平日は参加できない人もいないのではないかと。 | 50代 |
| 11 | 平日は基本的に大学での授業や校務があるため。 | 30代 |
| 12 | 運営を担ってくださる方々に感謝しております。 | 40代 |
| 13 | 上の問題は平日にしたら解決できるとは思えない | 50代 |
| 14 | いずれの曜日でも、誰かは難しいようにも思います。 | 40代 |
| 15 | 平日には講義や業務があり、土日よりも参加しにくい | 50代 |
| 16 | 土日開催でなければ授業があるので参加できません。 | 50代 |
| 17 | 平日は授業がある。大会に参加ができなくなるため。 | 50代 |
| 18 | 平日にかまかると、大学での職務に影響が大きい。 | 50代 |
| 19 | 平日は土・日曜以上に参加が難しいと思われるから。 | 50代 |
| 20 | 学生は平日に授業があり、土日しか参加できないから。 | 20代 |
| 21 | 平日開催の方が、むしろ日程が合わない可能性がある。 | 50代 |
| 22 | 平日開催を求める人がどれくらいいるのかによります | 60代以上 |
| 23 | 平日は教育機関での仕事や学業がある会員が多いと思うので。 | 50代 |
| 24 | 平日にすると、業務で行けないという可能性が高いからです。 | 50代 |
| 25 | 土日のほうが、休みになるので現役の大学関係者にはいいでしょう。 | 60代以上 |
| 26 | 土日開催で構わないが、動画配信・オンライン配信などを検討してほしい | 40代 |
| 27 | 大学教員ではないので、出張扱いにはならないし、平日は仕事を休めない。 | 50代 |
| 28 | 平日は勤め先の勤務がある人が多いと思いますので、土日がいいと思います。 | 60代以上 |
| 29 | 土日の片方をオンライン開催にする等の方法は考えてもよいと思われrます。 | 60代以上 |
| 30 | 休み期間中であれば平日でもかまわないが、現行のように12月だと平日は無理です。 | 50代 |
| 31 | 平日なら全く参加不可になってしまう。もちろん、人によるので「私の場合は」ですが。 | 40代 |
| 32 | 平日開催の場合、夏休みや春休みでない以上、参加できなくなる可能性が高くなりそう。 | 40代 |

| | | |
|----|---|--------|
| 33 | 大会の開催場所が遠方の場合、土日開催の方が勤務に支障がないという個人的な考えのため | 40代 |
| 34 | 遠隔地からの参加だと、平日が入ると参加しづらい、ハイブリットなどの対応があると良い。 | 50代 |
| 35 | 子どもがいて参加できないのは確かだが、それは平日でも同様なので、土日開催でも問題ない。 | 50代 |
| 36 | 土日でも平日でも誰かが都合が悪くなる。春休みや夏休みに開催するのでない限り、土日で良いと思う。 | 60代以上 |
| 37 | 平日だと参加が難しい、という状況の方が多気がする（少なくとも自分の知る限りでは、であるが）。 | 60代以上 |
| 38 | 土日も参加しにくい、平日も参加しにくい。対面開催の場合、平日では会場が確保しにくいのではないかと。 | 40代 |
| 39 | オンラインとの併用をしていただけると育児、介護等で参加の難しい方も参加しやすくなるように思います。 | 50代 |
| 40 | 平日開催になる場合は、補講の手当てをしなければならなくなるなど、それなりにまた別の不都合を生じる。 | 60代以上 |
| 41 | 平日開催を含むと、学期中の大学施設利用が難しくなります。よって、従来通りの土日開催に賛成いたします。 | (選択ナシ) |
| 42 | どちらとも言えません。但し、平日開催の場合、非常勤にとって授業があるため、参加できないことは確実です。 | 40代 |
| 43 | 平日は大学での授業がある。夜間にオンライン開催をするのなら話は別だが、平日開催では大会に出席できない。 | 50代 |
| 44 | 今回寄せられた意見も理解できるが、平日のほうが授業や業務と重なって参加できない会員が多いと思われるから。 | 50代 |
| 45 | 金曜日の授業を休講にすると補講が発生するためいまのところは土日開催が良いが、平日開催のメリットも確かにある。 | 40代 |
| 46 | 土日以外は大学業務があり基本的には参加できない（参加するために授業の休講が必須になる）教員が多いのではないかと考えるため | 50代 |
| 47 | 8月や3月などの大学の授業のない時期であれば平日でも参加できるかもしれませんが、授業期間の平日に参加するのは難しいです。 | 50代 |
| 48 | 専任の教員は平日教務の調整が可能かもしれないが、非常勤講師や大学院生の場合平日の授業を休講にして学会に参加するのは非常に厳しいです。 | 50代 |
| 49 | 平日は授業など仕事がある人が多いので、平日のほうが参加ができなくなる人が多くなるでしょう。授業期間中以外の時期だったら平日でもいいですが。 | 50代 |
| 50 | 平日だと授業と被ると参加できないため、土日だとありがたいです。ただ、未就学児がいるので、オンラインでも参加できると嬉しいです(ハイブリッドでも)。 | 30代 |
| 51 | 土・日でないと大学業務があつたり移動ができなかつたりするため、基本的には土・日開催が良いが、オンライン開催なら平日でも参加できることもあるかもしれません。 | 40代 |
| 52 | これは完全に個人的な理由だが、平日は授業や会議があり、大会に参加するとなると補講や会議の代理出席依頼、日程変更等を行うことになり、かなり負担が大きい。 | 50代 |

| | | |
|----|--|-----|
| 53 | 平日に授業があり、参加が難しいため、土日開催を希望します。追伸：勤務校では、学会参加による休講を認められていません。平日開催になると、確実に参加できません。 | 40代 |
| 54 | 上記の例として挙げられている理由は毎年のことではなく、また、広く学会員に当てはまるものではない。むしろ授業など平日の通常業務（学生会員は授業の受講）に支障が出る。 | 30代 |
| 55 | 長期休暇の平日なら開催は可能かもしれない。ただ、長期休暇の平日に開催した場合にも、勤務先の用件が入ることはあるし、宿泊するなら子供や要介護者の問題は変わらないのではないか。 | 40代 |
| 56 | 確かに土日も仕事や用件があり、参加できないときもよくあります。しかし、平日開催にしても、結局平日も大学の授業や仕事があるので、参加できないのは変わらないのではないかと思います。 | 30代 |
| 57 | 平日でも空けられない人は空けられないので、土日開催のままでよいと思います。ただし、最近、全体に企画を詰め込みすぎだと思っています。少し余裕を持ったプログラムにしてほしいと思います。 | 50代 |
| 58 | 平日は教育活動に従事しているため、土日でないと大会への参加が不可能になる。平日のほうが参加者が多くなる見込みはあるのか？個々の都合はあるだろうが、全体的な利益を考えれば土日開催が妥当。 | 30代 |
| 59 | 平日にしても授業があってもなかなか参加できないかと思っています。ただ週末にした場合、ホテルの予約が取りにくい上に高いので、オンライン配信をしていただけると海外の人でも視聴できるのでいいと思います。 | 40代 |
| 60 | 自分だけの都合でいうと、平日は授業があるから。平日にすることで、これまで参加できなかった会員に配慮することは大切な考え方であるが、平日にしたことで参加者が減って大会が維持できなくなることも危惧する。 | 40代 |
| 61 | 平日でもどうせ用事のある人はいるものですし、そもそも院生や非常勤講師で生計を立てている若手に授業や仕事を欠席させるのはいけないと思います。ってゆうか、そもそも平日に開催する場合、会場はどうなるのですか？ | 50代 |
| 62 | 本務校の授業を休講にしたり、会議を欠席したりすることが難しいため、現状のままを希望します。ただ、大会の開催時期を変更する（例えば、8月下旬～9月上旬など）のであれば、平日開催でも参加できる可能性が高いです。 | 20代 |
| 63 | 平日開催のほうが、仕事を休まなければならないため、参加が難しくなる。子どもが小さい時はオンライン開催がありがたかった。一日は平日開催とするよりは、一日はオンライン開催としていただくほうが参加しやすい気がする。 | 40代 |
| 64 | 上記に該当する会員が多いのであれば、金・土開催などでもよいのかもしれないですが、平日開催となると、今度はそれに不満の人がまた出てくると思います。現時点では、土・日開催が最も日本の事情に合っているのではないのでしょうか。 | 50代 |
| 65 | 平日に開催すればそれはそれで校務の都合で参加できない人もいうでしょうし、授業がある日に学会で使用する十分な数の教室の担保が可能な大学となると、会場校の選択肢を狭めたり負担が大きくなったりすることに繋がりそうに思います。 | 30代 |
| 66 | 個人的には平日に開催していただけると嬉しいが、大学によっては平日の学会参加を禁止しているところもあるほか、非常勤の方は参加が難しくなることも予想される。すでに身分の安定した方よりも不安定な方に合わせて運営した方がよいと思う。 | 30代 |

| | | |
|----|---|-------|
| 67 | たしかに連続した土・日開催であれば、両日とも参加できなくなってしまう可能性もありますが、平日開催にしても同様のことは起こると思いました。（むしろ平日開催の場合、授業などで参加できなくなる人も増えるのではないかと思います。） | 50代 |
| 68 | 授業を休講してまで学会に参加するのは難しく、実質的に土日開催のものにしか参加できない。居住地から遠い場所での開催の場合、前日の移動も行うことがある。その場合、もし金土開催になると、木金の授業を休校にせざるをえなくなり、逆に負担が大きくなる。 | 50代 |
| 69 | 平日は授業があって参加が難しいためです。しかし、家庭に幼い子供がおり、土日に参加しづらい状況でもあります。そのような状況ではそもそも家を離れづらいため、日程よりハイブリッド開催（せめてシンポジウムだけでも）の選択肢をいただけると活動しやすく、ありがたく思います。 | 30代 |
| 70 | 平日は平日で授業があり、休講にする必要が出てくる。補講を組まなければならず、手間がかかる。 ただ、個人的には、小さい子供がおり、参加が難しいのはその通り。そのときに、オンラインで参加できると理想的（対面とオンラインのハイブリッド開催）。※大変なのは重々承知しています。 | 40代 |
| 71 | 何かの用務や家の都合とぶつかるという問題は、平日開催にしても解決しないばかりか、授業と衝突するというさらなる問題を生むばかりのように思われる。育児や介護の問題を理由に平日開催を希望される御意見の方々は、開催予定日の授業をどうされるのか伺いたい。開催曜日には授業を入れないといったことが可能なのだろうか。 | 50代 |
| 72 | 「土・日開催を見直してほしい」という要望もよく理解できるものの、平日だと勤務先の仕事の関係で参加できない会員が多くなってしまおうと思われるため。（とはいえ、要望が多いのであれば、一度平日（を含む）開催を試してみて、参加人数を見てからその後の開催曜日を改めて検討してみるということにしてもよいかもかもしれません。） | 40代 |
| 73 | 平日開催では授業に支障が出るため。質問文に付された、入試や介護の観点から「見直してほしい」理由は分からないでもないが、会員のうち、それに当たらないの方が圧倒的に多いと思われるため、平日に開催した方がデメリットは大きいのではないかと。むしろ、土日開催であっても、入試や介護に携わる方が置いていかれないような方法を考えるべき。 | 60代以上 |
| 74 | 曜日を変えても同じ問題は起こると思えます。ですので、まず、今回挙げられた理由に対する意見や対策を探ってはどうかと思えます。たとえば、小さいお子さんや介護者がいつつ参加している方がいるのだとしたら、その方はどうしているのか、など。現状で対応されている方の実状を確認するのはいかがでしょうか。その上で、開催日を変えてみるのも一案だとしたら、変更を検討しても良いと思えます。 | 60代以上 |
| 75 | 大学教員の場合、平日には授業、公務があり、参加しにくい。たしかに、土日開催のデメリットはあるが、平日開催の方がデメリットが大きいように思う。土日開催は、公開講演など市民参加がしやすいというメリットもある。平日で会場の使用は大丈夫だろうか（特に大学の場合）。難しい問題ではあるが、多岐にわたる可能性をシミュレートし、メリットとデメリットを地道に比較していくしかないのではないかと。 | 60代以上 |
| 76 | ・平日は、授業回数の確保の必要もあり出張が困難です。 ・長期休みの平日も不規則に用務が入ります。（優先順位を変えられればよいのです | 50代 |

| | | |
|----|---|-------|
| | <p>が)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強いて言えば、平日でられそうなのは春休みですが、年度替わりの時期で家族のイベント（入学・卒業・受験・（家族の）異動転居…）が多く、個人的には現状では土日祝のほうが参加しやすいです。 ・平日は同じく授業の関係で、大学で開催するかぎり、会場確保もまずNGかと思います。 | |
| 77 | <p>以下、既に検討されてのうえかと思いますが。</p> <p>土日開催、平日を含めた開催いずれも、参加者にとってそれぞれ一理あると思います（大学教員の業務も昔と比べかなり増え、平日は参加が難しい場合もあると思います）。ただし、開催校からすると、平日授業が行われる中、会場を用意するのが難しく、開催校がなかなか決まらないということもあり得ると思います（土日も、検定試験等の会場に貸し出されていて、かち合うということもありますが）。</p> | 60代以上 |
| 78 | <p>上記の土日開催の場合に参加が難しい方々のご事情は理解できますので、土日にこだわる必要はないかと存じますが、おそらく土日開催の方が多くの方々に関しては、参加しやすいのではないのでしょうか。ですから、学会が参加者を幅広く求めたいというのであれば、土日開催と共に、平日開催の年度や平日を含む開催を試みることもよいのだろうと思います。こうした多くの方々が集う学会（その運営）のようなものには、正解はないのではないのでしょうか。</p> | 50代 |
| 79 | <p>オンラインによる自宅参加を整備する方がよい（ハイブリッド方式）。以下、その理由。直接顔を合わせることも大事だが、研究発表を聴く機会を確保することを優先すべきである。オンライン可となれば、海外の会員にも発表してもらいやすくなる。また、平日は通常勤務があるため、参加しにくい。平日開催をしたとしても要介護者への世話がなくなるわけではない。宿泊を伴い2日間家を空けることは、子どもの世話をする立場からすると、平日・土日関係なく不安である。</p> | 40代 |
| 80 | <p>職業や家庭、年齢などによってさまざまな意見があると思うが、平日に開催となると学生や学校勤務（高校など）の教職員の参加が難しくなるように思う。特に、一般的に学会参加は公欠事由として認められず、また出席率が単位取得や成績、ひいては学費減免や奨学金などに影響を及ぼすこともあるという現状がある以上、平日開催は学生の参加を抑圧しかねず、若い学会を保つという面では悪手なのではないかと感じる。なお、この意見は平日開催への懸念を述べるものであって、連続した土日開催にこだわる意図はない。</p> | 20代 |
| 81 | <p>1. 子供の面倒も見ながら学会に参加できるよう、zoom参加のやり方を導入すれば、土日もいけるのではと思います。学会が平日になれば、それこそ仕事と学会、どちらを選ぶかとすれば、学会を休むことになります。</p> <p>2. 土日と関係ない話ですが、学会はzoom導入をお願いできますでしょうか。日本全国を会場として運用しているようですが、非常勤をしながら宿泊費や交通費は、恐ろしい出費になっています。経費のため、参加したいけどやむを得ず欠席するので、学会誌だけ送ってもらう会員を続けるのかと考えたこともあります。</p> | 50代 |
| 82 | <p>海外の学会でのような事情は知りませんでしたが、間のあいた2日間で開催することは、開催校や大会運営委員会の方々の負担が大きくなりそうな気がします。</p> | 60代以上 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| | <p>そして、不連続の2日間の開催となった場合、開催地から遠い地域に住む会員が両日も参加しようとする、2往復しないといけなくなり、時間的にも経済的にも負担になるのではないのでしょうか。</p> <p>また、平日の開催は、それはそれで授業や会議等で参加できない（実行委員会や大会運営委員会の方々もそれ以外の会員も）ということも多くなるかもしれませんし、開催を大学で行うのが難しくなって別に会場を借りる必要がでてきそうな気がします。</p> <p>2日のうち、1日はいわゆる対面開催、もう1日はオンライン開催ということは可能でしょうか。</p> | |
| 83 | <p>入試などの用事、子育て・介護があるのは、平日も同じです。平日は、通常業務もありますので、土日よりもっと大変なのではないかと思います。1日は平日にしてはどうかのご意見については、移動日を入れると土日+前後1~2日間になってしまうこともありますので（出張日程のうち1日以上が平日になることも多いため）、結局似たようなことになるのではないかと思います。（お尋ねとは別の観点ではございますが、開催運営側からみると、これまで通り会場として大学施設をお借りする場合、平日は授業が入っていて会場を確保できないという問題が生じてくると思います。別の学会では有料の会議施設を借りることもありますが、大学施設よりずっと高額になり、今後の運営維持を圧迫するのではないのでしょうか。とはいえ、大学施設をお借りする場合、その大学の職員・学生のみなさんに負担がかかり、研究にかかる時間を削いでしまうという問題もあると思います。同じ会場校を何度も利用させていただく場合は特に配慮が必要だろうと思います）</p> | 50代 |
| 84 | <p>育児中です。私は大阪在住なので、平日に開催されても東京（近畿以外）開催であれば結局子どもの都合をつけなければ参加が難しいですし、平日が休日より都合をつけやすいということもあまり想像できません（あくまで私の事情・感覚です）。発表会場に子どもを連れて行けたら楽だなと思うこともありますが、一方で学会初発表の大学院生の発表会場で、我が子が静かにできなくてご迷惑をかけてしまうのは本意ではありませんし、学会の参加について、自分が何を求めたいかもはっきりできないところがあります。</p> <p>個人的には、対面学会がもっとも盛り上がるような方策を取っていただきたいと思っており、それが次世代の育成や、何らかの困難を抱えている人も都合をつけて参加してみたいと思えるようになることにつながると思います。</p> <p>その点でいうと、現在発表者の多くを占める大学院生は、平日に授業があればそれを休んで学会に参加することは難しいかもしれません。長い時間学会に参加し、コミットできる方が大会を先導して盛り上げてくださる、というのもひとつのやり方であると思いますし、より多くの方が長い時間参加しやすいのは土日なのではないかと思います。したがって、積極的な理由ではありませんが、土日開催に賛成しています。</p> | 30代 |
| 86-154【コメントなし】 | | |

■ その他

| | | |
|---|------------------|-----|
| 1 | 特になし | 50代 |
| 2 | 平日を入れて、金・土 | 40代 |
| 3 | 長期休暇期間の平日開催が望ましい | 40代 |

| | | |
|----|---|-------|
| 4 | 夏期休業中の平日に行うのが良い | 60代以上 |
| 5 | 日曜は避けてもいいのではないかな。 | 60代以上 |
| 6 | 平日を含めた開催を検討してほしい | 30代 |
| 7 | 休日と平日の2日間開催を希望します。 | 60代以上 |
| 8 | オンライン参加ができるようにすればいい | 60代以上 |
| 9 | 金、土などでもいいと思うが、土日でもいい。 | 50代 |
| 10 | 試験的に金と土の開催等を視野に入れてもよいかもしれません。 | 50代 |
| 11 | 授業期間中の開催であれば土日、休業期間中であれば土日でもよい。 | 50代 |
| 12 | 平日の夜のオンライン枠（録画再放送有）があってもいいかもしれません。 | 50代 |
| 13 | 一日を平日にする。現在の職場が土日勤務なので、まったく参加できていません。 | 60代以上 |
| 14 | 1日ずらして金・土開催もしくは日・月開催でもいいのではないかと思います。 | 40代 |
| 15 | 1日を平日、1日を週末にしたらどうかと思います。多分、金・土がいいでしょう。 | 60代以上 |
| 16 | 土日開催と、週末+平日開催を交互に行うなど、試行してみるのも一案かと思います。 | 60代以上 |
| 17 | 授業の予定があるが、子どもがいる家庭のことなどを考えると、平日の方がよいかとも思う | 50代 |
| 18 | 土日でもなんでも良いが、オンラインを並用するのが良い。遠方の人や学生も参加しやすいように。 | 30代 |
| 19 | 平日開催がよい。土日の方が融通が利かない用件が入ることが多く、平日の方が参加できる可能性が高い。 | 30代 |
| 20 | ワークライフバランスから考えて、授業日がない時期の平日開催を検討する時期に来ていると思います。 | 40代 |
| 21 | 多数決で決定するのはいかがでしょうか。またweb参加を柔軟に取り入れるのも一つの手手段だと思いました。 | 50代 |
| 22 | 土曜日の開催は他の学会やイベントと重なる傾向があり、ホテルの料金も高くなるので、日・月の開催が良い。 | 60代以上 |
| 23 | 金～土や金～日などでも良い。平日は業務で休みがないため、基本的に1日は休日開催にしたいです。 | 40代 |
| 24 | ホテルや飛行機など、休日だと取れない場合やライブなどと被り割高な場合が多いため、平日も検討して良いと思う。 | 20代 |
| 25 | 1日は平日（例、金曜日）開催がよい。1日を平日に開催することで、日程調整しやすくなるのではないかと思います。 | 40代 |
| 26 | 日・月。日・月開催ならば、遠方の大学が会場となって前日入りしなければならない場合でも授業を休講するなどせずすむから。 | 40代 |
| 27 | 「家庭に小さい子供がいる・要介護者がいる場合、土・日の参加が難しい」は体感としてある。言語学会のように託児があると助かる。 | 30代 |
| 28 | 平日も含めた方がよい。いずれにしても、オンライン（ハイブリッド）であればより参加しやすく助かります（家庭の都合や遠方の場合など） | 40代 |
| 29 | 金・土開催。延べ参加者数は土日の方が多くなりそうだが、ライフワークバランスを考えると落とし所として片方平日という辺りが良いと思う。 | 40代 |
| 30 | 金・土や日・月な半日は平日に開催。金・土や日・月など、半日は平日にした方が、宿や交通なども取りやすく、参加者が増えると思われます。 | 20代 |

| | | |
|----|---|-------|
| 31 | 1日は平日に開催が望ましい。1日は平日に開催が望ましい。例えば、金曜日は休講で対応できるうえ、日曜日は帰路および家族のために使える。 | 50代 |
| 32 | 同時期の同じ曜日に固定されていると毎年参加が難しい方が発生するかもしれないので、年度によって異なってもいいのではないかと思います。 | 40代 |
| 33 | 平日開催希望。平日は授業を休講にする必要があるものの、それ以外に特に問題はない。一方、土日は旅費も嵩む上、疲労がたまり、翌週に影響する。 | 30代 |
| 34 | できれば、授業期間でない時期の平日を希望します。会場確保のためにも、会期に平日を入れるのであれば授業期間外の時期が現実的ではないでしょうか。 | 40代 |
| 35 | どちらでもいいのですが、金曜日の開催となると、開催校が授業期間内であるため調整が難しい場合が想定され、授業を抱える大学院生や教員も多いと予想されます。 | 30代 |
| 36 | 金・土など、平日を含めてほしい。・土日が学会だと、休みがなくなって負担が大きいため。その一方で、土日以外は参加できない人もいるのではないかと懸念もしております。 | 20代 |
| 37 | フレキシブルに考えていいと思う。土日でなければいけない理由はないし、学校に所属している人も学会に行くということであれば正規の手続きを踏まえて授業など休みをとれると思う | 30代 |
| 38 | 金曜・土曜開催というオプションもあってよいかと思います。特に遠距離での開催だと、帰りの便を気にしながらとせわしくなるので、翌日が日曜だと余裕をもててよいと思います。 | 50代 |
| 39 | 授業期間の平日開催は教員参加者の都合、大学等の場所確保の両面からなかなか難しいように思います。大学等の春季・夏季休暇期間であれば授業期間よりは平日開催しやすいかと思えます。 | 50代 |
| 40 | 平日のほうが授業があり休講にするのが難しいです。一方で確かに土日は入試業務などもあるため、やはり参加が難しいときもあります。学期中よりも夏休みや春休み期間のほうが参加しやすいです。 | 30代 |
| 41 | 金・土曜日の開催が良い。遠方の会場である場合、宿泊が必要となるが、昨今国内ホテルの宿泊費も大変な値上がりをしており、土日開催であると、土曜日の宿泊代が他の曜日に比べて非常に高くなるため。 | 40代 |
| 42 | 現在東北地方に住んでいます。金曜や月曜に授業があるばあい、実質東京周辺の学会しか参加できません（北海道、九州はほとんど不可能。関西の場合には遅くとも日曜の午後に自宅に向かうこととなります） | 60代以上 |
| 43 | 金土開催なども検討して良いように思う。他の学会はたいてい土日開催で、全ての学会が土日開催だと土日に動けない人が全てに参加しにくくなるので、バリエーションをつけることができるのはメリットに思う。 | 30代 |
| 44 | できれば一日は平日の開催だとありがたいと思います（休みが確保できる点や他学会と重なった場合でも一日は出席可能である点などから）。ただ、実際には、平日だと教室の確保等が難しいのではないかと思います。 | 50代 |
| 45 | 開催曜日を変えて欲しい。今と同じ授業期間に開催する場合は金曜と土曜にしたり、休業期間に開催時期を移して両日とも平日にするなど、他の国内学会が取っていない選択肢を敢えて検討していただきたいと思います。 | 40代 |

| | | |
|----|--|-------|
| 46 | 上記の複数日程のうち1日程は平日、というのになるほど、と思いました。個人的には土日開催の継続でよいのですが、その場合、子育て中の研究者のニーズが強いのであれば、託児のサービスなどの充実が必要ではないかと思います。 | 40代 |
| 47 | 「連続した土・日に、勤務先で用件（例えば入試など）がある場合、両日とも参加できなくなってしまう」「海外の学会は、複数日で開催される場合、そのうち1日は平日に開催されることが多い」という意見に賛同します。金・土 or 日・月の開催を希望します。 | 30代 |
| 48 | 会員の働き方を考える上でも、平日開催を考える方がよいのではないかと。何曜日にするのか、時間帯はどうするかなどは、検討が必要だと思うが。現行では、土日どちらも家を自由に空けられる人しか参加できない状況であり、結果的に参加の機会が不平等になると思う。 | 30代 |
| 49 | 平日を含めた2日間開催（例えば金、土）を試す。一長一短があるので、土日開催でも、金土の開催でもどちらでもいい。平日を含めた開催を検討し、まずは試みとして開催してみてもどうか。応募者や参加者の推移を見て、土日開催にすべきかどうか判断した方がよい。 | 50代 |
| 50 | 土日開催でもよいのですが、開催時期を変えられないでしょうか。日本語学関係の学会の場合、だいたい大学の学期中の開催が多いのですが、他分野の専門の先生にそのことを話すと、驚かれることが多くあります。他分野では夏季休暇・春季休暇の期間に開催されることも多いようです。 | 40代 |
| 51 | 金・土、または日・月なども検討に値すると考えます。経験的にですが、本学会の大会が勤務先の公務とかさなることが多くありました。前後どちらかが平日であれば、若干の余裕はあり得たと思います。しかし、一般に、勤務体制と移動日の関係も多様でしょうから、決定的な方策は想定しにくいと考えます。 | 60代以上 |
| 52 | 1. 休日参加を基本としつつも、若手研究者が参加しやすい方向に開催曜日を多様化すべきである。2. 大会の1日目と2日目の参加需要が異なることにも配慮し、それぞれについて「休日と平日」が混じるようにすべきである。3. 具体的には、「金・土」、「土・日」、「日・月」の3パターンを混ぜるとよい。 | 60代以上 |
| 53 | 確かに土日に校務が入り、大変厳しいですが、かと言って平日は毎日授業なので、家庭のこともあり、さらに難しくなります。長期休み中ならとも思いましたが、余計に忙しくなることもあるので現在の12月の土日というのが割合良い気もします。土日が良いと考えているわけではないので、他に良い案があればありがたいです。 | 40代 |
| 54 | 平日開催があってもよいと思います。「自分の授業がない日」だといいいのですが、現実には授業日に当たって休講にするのが大変な方も多いため、難しいところだと思います。また、金曜日だと専任教員の人手を確保できるかあやしい面がありますね。平日開催を視野に入れるならもっと学振研究員とかPDとかの人に学会委員を担ってもらったほうが良いのでは。 | 40代 |
| 55 | オンライン開催、配信の検討。この問の意図がわからない。一日にしろということだろうか。1日にしても良いが、オンラインとの併用開催の検討がいいと思う。さらに、オンデマンド配信がされると理想的だと思う。が、配信は発表者の意思が最大限配慮されるべきだと思う。拒否できる権利もあるべきだ。拒否する場合に発表の権利が取り消されることは避けるべきだ。 | 50代 |
| 56 | 土日中心がよいが、平日開催を排除しない。平日に授業があれば、その曜日の学会は出られなくなる（休講を簡単に行える状況ではない）ただし、土日に入試業務等が入ることも多く、どの曜日でも出席できない場合があることに変わりない。そのため、試験的に平日開催 | 40代 |

| | | |
|----|---|-------|
| | <p>を行うことは差し支えないと考える。(繰り返すが、土日開催を見直しても、平日だから出席できるという話にはならない。いつ開催しても、出席できない状況は必ず存在する)</p> | |
| 57 | <p>勤務(授業)に穴を開けないようにというまじめな動機から日本の多くの学会は土日に大会を開催してきたが、複数の学会に参加するとなると、土日が立て続けに休めなくなり、本人の健康上の負担になりうる。この見地から、小さい子や要介護者がいなくても、平日開催があってもいいのではと思ってきた。欧米の文化では日曜は安息日なので学会も開催しないということが多いのでは。もちろん勤務に支障が出るという問題もあるわけだが、最近は休講した場合の補講制度も定まっている大学が多いことでもあり、われわれも試験的に平日開催を実施してみてもいいのではと思う。</p> | 60代以上 |
| 58 | <p>金・土の開催などを検討してもらえるとありがたい。夫婦で学会員となっており、かつ2人の乳幼児の育児をしているため、土日開催の場合(特に地方開催の場合)にはほぼ必ずどちらかが参加を諦めなければならないことになっています。子供の年齢を考えると、このような状況がおそらく10年程度続きます。現状の開催状況の場合、夫婦で学会員になっていて子育てを始めた、ないし始めようとしている会員は、非常に難しい状況に置かれることになるのではないかと思います。土曜日開催であれば保育を利用できる可能性もあるので、「金・土」などの実施にしていただけると、より参加しやすくなります。開催日を変更する以外にも、言語学会のように託児サービスがあれば、子育て世帯については参加しやすくなるように思います。もちろん、必ずしもそのような家庭環境ではないという会員が多数派であると思いますが、このような議論は単純な多数決では現状維持に傾きやすいので、子育て世帯以外の要望(例に挙げがっていた介護世帯、本務校の業務に関連した要望など)も含め、慎重に取り上げていただければ幸いです。</p> | 30代 |
| 59 | <p>「土日ではない開催」のあり方による。「絶対に土日開催がよい」とは思わない。土日開催を見直してほしいという理由についても納得できる。しかし、「土日開催」をやめたとして、その場合にどういった形で大会が行われるのかよく分からないので、現状でははっきりとした意見(特に賛否)は言えないというのが正直なところだ。土日以外というのは要するに「平日」に他ならないので、平日に大会を行うということだと思われる。では平日のどの時間なのだろうか。平日の日中であれば、授業や種々の校務があるため、参加できない可能性は大いにある(しかも、校務によっては直前にならないと具体的な日時が分からないものもあり、口頭発表や委員会業務のために予定を空けておけるかどうかは不透明である)。それでは平日の夕方以降だろうか。確かに遅い時間であれば授業や校務は入りにくくなるが、子育てをされている会員の方にとっては参加が難しくなってしまうのではないかと思います。また、平日に大会を開催するのであればオンライン開催が想定される(平日に会場を貸せる大学は存在しないだろう)が、これはつまり、現地開催はやめてしまうということなのだろうか。オンライン開催と現地開催(すなわち平日開催と土日開催)を交互に行うというのも一つの策ではあるが、このような点について具体的に考えなければ、開催方法の見直しは難しいと思う。</p> | 30代 |

以上です。率直なご意見を、本当にどうもありがとうございました。